

10・7 IMF「不安定労働に對抗する 2008年世界行動デー」における IMF・JIC（金属労協）のアクション

「10・7不安定労働に對抗する世界行動デー」へのIMFの呼びかけに応じて、IMF・JICも世界の仲間と共に、3つの行動を展開した。

1 IMF・JIC第47回定期大会で「不安定労働に反対する決議」を採択



IMF-JC第47回大会で不安定労働に対する行動を訴えたマレンタッキIMF書記長



不安定労働反対決議を満場一致の拍手で採択

まず、第1の行動は、2008年9月2日のIMF・JIC第47回定期大会の場で、「不安定労働に反対する決議（別掲囲み）をIMF・JIC女性連絡委員でもある富樫洋子代議員（JAM）が提案し、満場の拍手でこれを採択したことである。この決議はIMF（国際金属労連）が昨2007年11月ブラジルにおける中央委員会で決定した「10・7IMF不安定労働に對抗する世界行動デー」に向けたJICのアピールをまとめたものである。同決議では、



不安定労働反対決議を提案する富樫代議員

ものづくり産業労働者の立場から政府、経営側、関係方面に対して、「良質な雇用の創出に向けての最大限の努力」などを求めている。

不安定労働に反対する決議

グローバル化の急速な進展に伴い、世界中で不安定労働が増大し、勤労者の生活基盤を脅かすとともに、格差拡大を招いている。このようなグローバル化の負の側面に対し、IMF(国際金融基金)は、10月7日を「2008年不安定労働に対抗する世界行動デー」として、世界中の組織に一斉行動を求めている。

わが国でも3分の1を超える勤労者が、非正規従業員として派遣、請負、パートなど不安定な雇用形態で働いている。勤労者にとって、就業形態の選択肢は必要である。しかし、現実には自らの意思に反し、賃金・労働条件の低い不安定労働に就いている多くの勤労者がいる。不安定労働の拡大は、国内市場の縮小、格差の拡大、新たな階層社会をもたらす、社会の不安定化をまねく。加えて、長期雇用の中で蓄積される従業員の技術・技能、経験に裏づけられた判断力と創意工夫という、わが国ものづくり産業最大の「強み」を喪失させることにもつながる。わが国経済の持続可能性、社会の安定、産業の活力を損なうことは明らかである。

われわれは、「世界行動デー」にちなみ、ここに改めて「良質な雇用」の創出を求め、政府、経営側、および関係方面に対し、強くアピールしていく。

1. 政府および経営側は、「良質な雇用」の創出に向け、最大限の努力をしていくこと。
2. 「良質な雇用」とは、ヒューマンな長期安定雇用、あるいは、短期雇用の場合は本人の希望によるものであり、同一価値労働同一賃金の原則に貫かれた均等・均衡待遇が実現されているものであること。
3. 偽装請負の根絶、日雇派遣の禁止はもとより、短期雇用かつ間接雇用という「二重の不安定」は、厳しく制限すること。
4. 正社員としての就職を促進するため、「若年者トライアル雇用」「ジョブ・カード制度」などを活用していくこと。また政府による生活資金や住居の支援も拡充すること。
5. 保育所、学童保育の質・量両面の拡充を図ること。ひとり親などが安定して働き、安心して子育てできる環境を整備すること。
6. 制度の悪用による問題が生じている外国人研修・技能実習制度については、その運用の厳格化・適正化を図るとともに、日系人労働者については、定住を前提とした制度整備を進めること。
7. 世界のあらゆる事業所において、中核的労働基準を遵守し、労使対等と公正な成果配分を実現すること。

われわれ金属労協は、雇用・労働分野に生じているグローバル化の負の側面に対し、断固として立ち向かい、「労働の尊厳」を取り戻し、もって全世界の勤労者の生活向上、産業の健全な発展、経済の安定成長を追求していくことを、ここに決議する。

2008年9月2日
全日本金属産業労働組合協議会
第47回定期大会

2 10・7に西原議長が厚生労働省に「不安定労働反対」で要請



厚生労働省村木総括審議官に要請書を手渡す西原金属労協議長(左)



厚生労働省に要請を行う西原議長(左列中央)と若松事務局長(左端)

第2の行動として厚生労働大臣宛の不安定労働の是正に向けた要請文を、9月2日の第47回定期大会で採択した「不安定労働に反対する決議」を添えて、村木太郎総括審議官(国際担当)に手渡した。「IMF不安定労働に対抗する世界行動

デー」である2008年10月7日、韓国金属労連との協議を終え帰国した西原金属労協議長と若松事務局長は、羽田空港から厚生労働省に直行した。厚生労働省としても、「不安定労働に反対する決議」に沿った労働政策を実行し、「良質な雇

用」の創出と「労働の尊厳」の回復に努められるよう不安定労働の是正に向けた要請を行った。

これに対して、厚生労働省の方からも、「IMF・JCの主張している『良質な雇用』は、ILOならび厚生労働省としても推進している『ディーセントワーク』に沿ったものであり、十分に対応していきたい」などの見解が示された。

3 連合とJCをはじめとするGUFで「ディーセントワーク中央集会」を共同開催

2008年10月9日(木)夕刻、IMF「不安定労働に対抗する世界行動デー」の一環として、連合とIMF・JCをはじめとする各GUF

(国際産業別組織)日本組織は、「ディーセントワーク世界行動デー10・9中央集会」を東京・日比谷公会堂で共同開催した。同集会では、IMF・JC加盟産別およびIMF・JC事務局をはじめ1,500名の労働組合代表が参加した。JC事務局も、「不安定労働反対」のIMFポスターを貼った、そろいの黄緑のパーカーを着込んで参加した。

集会壇上には、西原議長も黄緑のIMF・JCのパーカーを着て登壇、GUF代表として紹介された。

中央集会には、労働組合の国際組織(ITUC)や韓国労総(FKIU)の代表も出席し、国際的な取り組み報告を行うとともに、日本マクドナルドユニオンや地方連合会(連合大阪)からも職場と地域で、人間らしい働き方を求める日々の奮闘が報告された。また、民主党から鳩山幹事長も駆けつけ、政治の立場から、ディーセントワークの実現に協力していきたいと連帯の挨拶もされた。



西原JC議長として紹介を受けるGUFのIMF代表

集会のまとめとして、古賀連合事務局長から取り組み報告と決意が述べられた。最後に、連合東京の女性委員会の岡田麻美さん(JAM)から「政権交代を実現し、均等待遇の実現、労働者派遣法の改正、時間外割増率の引き上げ、最低賃



高木連合会長で挨拶するディーセントワーク世界行動デー10.9中央集会



世界の労働者の現状を報告する
ITUCジュネーブ事務所ピオンデ所長



アピールを提案する岡田麻美さん
(JAM)



そろいの黄緑のパーカーを着込んで参加したIMF-JC事務局メンバー(日比谷公会堂)



銀座通りでアピール・ウォークする西原議長・若松事務局長らJC事務局

金の大幅引き上げを勝ち取ろう！」とのアピールが読み上げられ採択された。

集会終了後、参加者は、会場の日比谷公会堂から、銀座、東京駅前を通り、常盤橋公園まで、「不安定労働反対」などのプラカードなどを持って、働くすべての人たちへの労働の尊厳の回復、公正なグローバル化、基本的な権利の尊重、ストップ！ザ・格差社会、失業や不安定雇

用労働者のない社会の実現を、シユプレヒコールをしながら行進し、道行く人たちにアピールした。JC加盟産別のメンバーと共に行進に参加したIMF-JC事務局も、西原議長、若松事務局長を中心に「不安定労働反対！」の横断幕を先頭に、IMF-JCののぼり旗やプラカードを手に持ち、銀座通りを行進し、道行く人々に「不安定労働反対」を訴えた。

世界40カ国以上で金属労働者が統一行動を展開

2008年10月7日、IMF「不安定労働に対抗する世界行動デー」を中心に、IMFの呼びかけに応じて、世界40カ国以上で、「世界の不安定な労働、職場、仕事」に対抗して統一行動を展開した。

IMFのマルチェロ・マレンタッキ書記長は、「正義のために世界の労働者の動員を」と題して次のように呼びかけている。

「2008年9月末から10月7日まで、国内・地域・世界レベルの労働組合運動全体が、不安定労働の根絶を要求するために世界中で労働者を動員する。

あらゆる形態の不安定労働は各種領域の労働者の間に分裂を引き起こすため、労働者だけでなく企業にとっても危険であり、容認できるものではない。すべての労働者とその家族が、社会的保護や適切な医療、年金、教育の機会を必要としている。これらは国際法で保証された基本的権利であり、すべての国々で国内法に統合しなければならない。

不安定労働は、労働者の基本的権利の遵守の最も大きな障害になっている。毎日、ますます多くの労働者は、組合に加入する権利のない不安定労働に従事していることに気づいている。

労働の不安定な形の増大は、現在直面している世界的な財政危機につながったと同じ方針の失敗の直接的な結果である。これらの方針は変わらなければならない。

世界中の金属産業労働者の動員は、一時的な不安定な労働はストップしなければならないとの明確な表明である。安定したディーセントな労働を提供することにより重点を置かなければならない」と。

IMF(国際金属労連)は、世界中の40カ国以上の加盟組織から、統一行動についてのレポートを受け取っている。金属労働者と彼らの組合は、アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、ブルガリア、チリ、コロンビア、キュラソ、チェコ共和国、ドミニカ共和国、フィンランド、フランス、ドイツ、ホンジュラス、ハンガリー、インド、インドネシア、イタリア、日本、コソボ、マケドニア、マレーシア、メキシコ、ノルウェー、パキスタン、ペルー、フィリピン、ポーランド、ロシア、セルビア、南アフリカ、韓国、スペイン、スリランカ、スウェーデン、タイ、トルコ、ウクライナ、ウルグアイとベネズエラで不安定労働に対抗する統一行動に参加した。



東京駅前通りをアピール・ウォークするJC事務局、電機連合などJCの仲間たち



アピール・ウォークするJC事務局
そろいのパーカーの背には、英語で
「不安定労働反対」の文字が!